

ジイジ・バアバ、
パパ・ママへ贈る

アヤと過ぐすジイジの日記

心のめばえ

<2>

著者／牟田 泰三
挿絵／橋本 礼子

思いやる心



アヤの行動を観察していると、幼児の心が芽生え育っていく様子に驚かされることが多い。幼児の心に他者への思いやりが芽生えるのはいつ頃なのだろうか。三才から五才ぐらいだろうか。そもそも「他者を思いやる心」は、新たに芽生えるものなのか、それとも、もとあるものが開花するだけなのだろうか。

注意深く観察していると、他者を思いやる心は、ある時急に生じるというよりは、何時とはなしに生まれてくるように思われる。それまで気づかずにいたものが、だんだん鮮明に気づかされてくるような感じがする。

無から有は生じないという考え方があ。だとすると「もともとあるものが開花する」説のほうが有力なのかも知れない。

他者の心に気づき始めるのは五才頃だという実験結果がある。しかし、本人は気付いていなくても、幼児によってはもっと早い時期に思いやりの心のようなものが宿っているのではないだろうか。

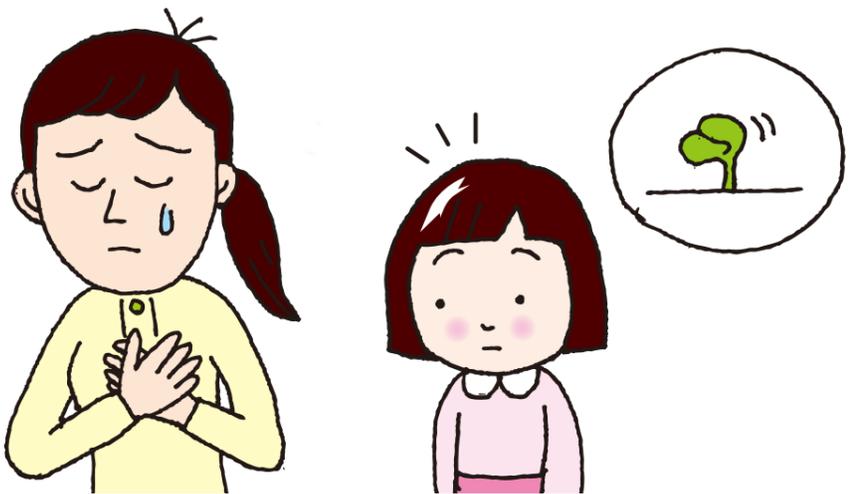
単語を発し始めるのは二歳前後で、三歳になると単語と単語が結びついて文章になり始める。この頃になってやっと「ことば」を通して幼児の思っていることが確認できるようになる。そして、大人は幼児に芽生えた「他者を思いやる心」に気づかされるのである。幼児には、それ以前にも、ひよとすると言葉では表せないような形で漠然とながら「他者を思いやる心」が姿を表し始めているのかも知れない。こう考えてくると、「他者を思いやる装置」は最初から人に備わっていて、それが発現して、言葉を通して大人にも見えるようになるのが三才頃だと
言えるのではないかと思われる。

「暗黙知」という考え方があ。我々が通常言葉で表現する知識のほかに、言葉を越えた、言葉で表現できない、より直感的な知識があるとし、これを暗黙知とよぶ。

例えば、「あの人は何か悲しそうに見える。」と言ったりするが、「どうしてそう思うの?」と聞いても、うまく言葉で説明することが出来ない。ただ、直感的に悲しそうな雰囲気を感じ取っているのだ。

我々が持っている知識の全体は、通常考えている、言葉で表現できる知識よりも、広い範囲にわたっていると考えられる。言葉で表すことが出来る知識は、知識全体から見ると、その一部にすぎない。

このように、言葉では明確に表現できないけれど、直感的に知覚することが出来るような知識を「暗黙知」とよんでいるのである。暗黙知に対して、言葉によって明確に述べる事が出来るようになった知識は「形式知」とよばれている。幼児期というのは暗黙知の世界から形式知の世界へと移り変わる時期なのではないだろうか。



ジイジの 気付き



他者にも心があることを知ることが
「思いやり」の始まり

ジイジへのお便り

エッセーを読んだ感想などを、お寄せください。
weekly@pressnet.co.jp
「心のめばえ」係へ

プロフィール むたたいぞう 1937年、福岡県生まれ。
九州大学理学部卒業、東京大学大学院物理学専攻修了、
理学博士。京都大学助手、助教、広島大学教授・学長、福
山大学学長などを歴任。主な著書に「語り継ぎたい湯川秀
樹のことば」(丸善出版)、「電磁力学」(石波書店)、「量子力
学」(裳華房)などがある。東広島市在住。